



六中だより

～自主・勤勉・共生～

No.3

令和5年9月発行
港区立六本木中学校
校長 松島 智子

2学期が始まりました

校長 松島 智子

今年の夏休みは、連日、暑い日が続きましたね。暑すぎて外に出るのが嫌になるくらいでしたが、皆さんはそれぞれ、思い思いの夏休みを過ごすことができたでしょうか。ここで、私なりのこの夏休みを振り返ってみたいと思います。

夏休みの最初は、ソフトテニス部、バスケットボール部の都大会がありました。3年生にとっては最後の大会でしたので気合も十分に臨みましたが、残念ながら思うような結果を残すことはできませんでした。その悔しい気持ちは、3年生のこれまでの頑張りを見てきた2年生、1年生に引き継がれ、新たなチームとして挑戦していってくれることでしょう。

また、2年生はこの夏休み中に夏季学園が行われ、今年は初めて、尾瀬方面に行きました。お天気にも恵まれ、都会では味わうことのできないおいしい空気と素晴らしい景色を堪能することができました。また宿舎では、友達とゆっくり過ごし、お互いの友好を深めることができました。3日目にお世話になった農家さんでは、おいしく安全な作物を作るため、土の改良や肥料など、長年努力を重ねている農家さんの熱意に触れることで、食べ物を無駄にしないということに改めて考えるよい機会になりました。



1日目 手吹きガラス体験



2日目 尾瀬ヶ原の散策



3日目 餅つき体験

そして、4年ぶりに行われた港区海外派遣事業には本校から4名の生徒が選ばれ、10日間の日程で、オーストラリアのパーズにて、ホームステイをしながら現地校でさまざまな体験をしました。自らの視点を海外に向け、衣食住を共にすることを通して理解を深め、そして改めて日本を見直すことができる絶好の機会となりました。9月9日（土）に行われた「海外派遣生徒による報告会」では、中学生は全て英語で体験した内容を堂々と皆さんに伝えていました。ぜひ、この経験を自身の今後の成長に役立てるとともに、次の学年につなげていってほしいと思います。

(裏面につづく)

夏休みの風物詩の一つに高校野球があります。実は今回の甲子園は例年と違って特にグッとくるものがありました。今年は息子の同級生の何名かが甲子園に出場しており、中には小学生の頃からみていた子もいたので、まるで自分の子が出ているくらいの気持ちになって応援していました。勝っているときは本当にうれしかったし、負けているときは神様に祈るような気持ちでした。このように思えたのは、彼らの努力してきた日々を知っているからです。よく、甲子園に行くような生徒はスター選手であって生まれ持ったの才能がある人たちだと思われがちですが、決してそうではありません。彼らも普通の小学生、中学生から高校生になった人達です。しかし、彼らは何もなくあの大舞台に立てたわけではありません。毎日毎日、来る日も来る日も同じことの繰り返し、朝から夕方暗くなるまで、黙々と練習に励み、その頑張りがなければあの場に立つことはできませんでした。こうした話は野球に限らず、スポーツ全般に言えることです。先日、バスケットのワールドカップが開催され、日本の選手たちは厳しい試合を全力で戦い抜き、見事次のパリオリンピックへの切符を手に入れることができました。これこそ、長年に渡る日々の努力の積み重ねの結果であり、劣勢になっても決してあきらめずに仲間を信じチームの力を結束して臨んだ強い気持ちの表れと言えるでしょう。

勉強も同じことが言えるのではないのでしょうか。毎日コツコツと続けていくことで積み重ねられ、自分の中でこれだけのことをやってきたという自信が裏付けとなって、試験当日に力を発揮することができ、結果に結びついていくと思います。何に関しても、努力がなければ成功にはつながりません。

さあ、2学期が始まりました。2学期は長く、行事もたくさんあります。それぞれが活躍できる場で自分の力が出せるように、日々の学習や、課題にしっかり取り組んでください。この2学期を価値のあるものにするために、私から一つ提案があります。

まずは、皆さん、「どんな学期にしたい」という目標を決めてください。「どんな学期にしたい」という目標が決まったら、次にその目標を達成するための「具体的な行動」をいくつか考えてみましょう。「具体的な行動」は実現可能なことにしましょう。最初から無理なことをあげても結局できないままに終わってしまいます。自分でこれならできそうだと思うことを書いてみましょう。そしてそれを毎日、目にするところに貼って、1日1回は見て自分で自分の気持ちを高めていきましょう。

それでは、2学期の皆さんの活躍と頑張りを期待しています。



保育園でのお手伝い（8月下旬）



9/4 朝礼（防災について講話）



9/9 海外派遣報告会